

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 12 月 15 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470900659		
法人名	特定非営利活動法人はあとろおーむ		
事業所名	グループホームたんぽぽ		
所在地	広島県三原市和田3-10-19 (電話) 0848-81-0670		
自己評価作成日	平成27年7月27日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470900659-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470900659-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年12月14日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

みんなで一緒に楽しく過ごせるように、寄り添いながら馴染みのあるサービスを提供することを目指しています。理念である「今、ここで楽しんで」「今、ここで笑って」「今、ここで輝いて」を念頭に、一人ひとりのペースでゆったりと生活が出来るよう環境整備に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ホームの介護理念を基に、「職員が楽しくなければ、利用者も楽しくない」を重視し、職員とケアに取り組んでいる。ここでは、利用者が今までと同じリズムで生活し、利用者のペースでゆっくりと過ごせるように、職員は見守っている。また毎日、利用者と一緒に食材の買い出しに出かけ、利用者と相談し献立を決め、食事の準備・盛り付け・後片付けも一緒に行っている。利用者の健康に配慮し、一日30品目の食材を使って食事を提供するように工夫している。また、利用者と一緒に掃除し、室内を清潔に保っている。看護師が職員として配置されていることが、家族に安心感を与えており、職員は協力し、助け合って利用者を支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ミニミーティングなどで笑顔という言葉を出し、日々の中で笑顔を引き出せる様な声かけをする様にしている。	事業所理念「今、ここで楽しんで。今、ここで笑う。今、ここで輝いて」を基に管理者は、「職員が楽しくなければ、利用者も楽しくない」を職員に話し、このことを実践するように取り組んでいる。	ホームの職員が、理念に基づいた活動ができたかを評価する機会を作り、理念を振り返って、今後の利用者支援に活かしてほしい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	民生委員の方から、地域行事の情報を貰い、参加していきたい。（子供みこしを玄関先で出迎えるなど）。	地域行事が夜遅くに開催されたりと、なかなか行事に参加することが出来ないが、年1回の子供みこしは利用者と一緒に楽しんでいる。玄関の植え込みに近所の方が腰かけたり、花を届けに来られた際に、職員・利用者が話し、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	キャラバンメイトとして声が掛ければサポーター養成に協力出来る体制にある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域へ出掛けて行くための地域情報を、得るようにしている。	市職員、地域包括支援センター、民生委員が出席し、定期的開催されている。特に、民生委員から地域の行事に関する情報を教えてもらい、ホームの活動に役立てている。今のところ家族の出席がなく、家族が出席できるように開催日について協議した。	運営推進会議に家族の出席が見られず、ホームとしては開催日を検討している。今後は、運営推進会議での報告事項や出席者からの助言が記載された議事録を家族に送付し、運営推進会議に関心を持っていただき、家族参加を促進して頂きたい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の窓口へ行き、気になる事は相談するようにしている。	運営推進会議に市職員が参加し、その際に、意見交換を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>日々の申し送り、報告等で、自覚しない身体拘束が行われていないか、ケアを振り返るようにしている。</p>	<p>身体拘束に関しては、外部研修に参加した職員の報告会で、皆で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。このホームでは、自室以外の部屋に侵入を繰り返す利用者があり、当事者以外の部屋に施錠し安全確保を図っているが、利用者家族に説明し、了解を得ている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修に行き、気になる所は話し合うようにし、勉強会も行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見人制度を利用している人の後見人と、連絡を密に取るようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>時間を取って丁寧に説明し、重度化や看取りの対応についても説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>言葉として発せられる意見は採り上げているが、運営に反映するには至っていない。</p>	<p>家族の面会時、電話連絡の際に、家族の意見を聞いている。またホームでの利用者の生活状況を毎月、手紙で報告している。家族からの要望により、往診時に特記事項が無くても、毎回の状況を家族に連絡するようにした。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>要望や意見を聞くよう、声を掛けてはいるが、不満や苦情は言い難い部分も多いと思われるので、把握しきれていない所がある。</p>	<p>管理者は、職員会議、申送り、各階リーダーからの報告時に、職員の意見を聞いている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>キャリアパスの導入や、資格取得に向けた研修参加を勧めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>個人の力量、状況に応じて行っている。また外部研修に参加した人には、所内研修の場を設け、他のスタッフと勉強会を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>研修では同業者と交流する機会を持つようにしてるが、地域の同業者とは思いうように出来ていない。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>サービス利用について相談があったときは、必ず本人に会って、心身の状態や本人に向き合い、本人に受け入れられるような関係作りに努めるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>これまでの経緯についても、じっくりと話を聞くようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>状況等を確認し、必要なサービスにつなげるようにしている。他の事業所へ紹介も行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>お互いが協働しながら、和やかな生活ができるよう、場面作りや声掛けをしており、少しずつ出来ている。食事作りや掃除など、出来ることを少しずつ共に行っている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>日々の暮らしの出来事や、気付きの情報共有に努め、本人を支える姿勢でいる事を伝えるようにしており、少しずつ築いていけている。月に1回、便りを出したり、来所時の会話を大切にしよう心がけている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>行きつけの美容院に行かれる方もある。親戚、元近所の方などの面会も歓迎している。</p>	<p>毎年、職員が手伝って年賀状を完成させて家族に送り、利用者は返事が来るのを楽しみにしている。また、利用者の地元の敬老会に知人の助けで参加したりと、馴染みの関係継続を職員や家族などと一緒に支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	お茶や食事の時間をスタッフも共に過ごし、少しでも会話を多くするようにしたり、役割・活動等を通して利用者同士の関係がスムーズに行くように努めている。レクリエーションや利用者同士で協力し合っのおやつ作りなどを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	継続的な関わりを必要とするケースが今は無い。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で声をかけ、把握に努め、言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。	日常の関りの中から得られた利用者の意向や思いは、出来るだけ発言した通りに個人記録に記載するようにし、職員間で共有している。「家に帰りたい」利用者については、家族に連絡し日帰り自宅で過ごしたり、散歩や外出で気分転換を図ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人自身の語りや家族の訪問時など、少しずつ把握に努めており、少しずつ情報がとれている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	できること、わかることに注目し、その人の全体の把握に努めるようにしている。変化に対応できるよう、その都度見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入居者によっては家族との話し合いが十分に出来ていないケースがあるが、短時間でも極力話しをするようにしている。本人の認知のレベルによっては、本人の思いが十分に把握できず、反映しきれないケースもあると思われる。変化に応じで見直しも行っている。</p>	<p>3か月に1回のモニタリングは職員の意見を参考にし、ケアカンファレンスでは、職員の意見を聞き、ケアプランの見直しを行っている。最終的にケアプラン作成者がケアプランを作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別ファイルを用意して、日々の暮らしの様子や本人の言葉・エピソード等を記録する様になっている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>家族の通院介助が困難な場合、近隣の往診して下さる病院を紹介している。突発時・急変時の受診に置けるは、状況に応じて対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員と意見交換する機会を設けている。屋外に出たときはこちらから挨拶したりし、働きかけを行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人や家族が希望するかかりつけ医となっており、要望、状況に応じて対応している。</p>	<p>本人や家族の要望でかかりつけ医を決め、看護師は利用者の健康状況を把握している。体調不良時には、協力医をかかりつけ医としている利用者には、医師に連絡し、他医療機関を受診する利用者は家族に連絡し対応してもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常に、ホームの看護師と共に、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。ケアに関するファイルなどを作り、把握できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化に伴い、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。統一していけるよう話し合いもされている。	ホームとしては、本人・家族の要望があれば看取りを行う方針である。しかし、ホーム内では適切な医療行為が出来ないことを家族に説明し理解してもらっている。重度化した際には、医師・家族と協力し看取りを行った事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時、電話の手順を解りやすいように書いており、勉強会などを通して把握している。新たに対応として必要なことが出てくれば、その都度勉強会をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアル作成し、避難訓練を行っている。時々、確認のため勉強会をしている。	年に2回、避難訓練を行っている。その内1回は、消防署立ち合いの下に、夜間を想定した訓練で、利用者も参加している。災害時の避難に関しては、消防署に相談し、色々と指導してもらっている。避難訓練後は、反省会を行い、対策を検討している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	記録には利用者の名前を書かないようにし、他の家族や外来者に対して、スタッフが本人のプライバシーに関する話を話さないようにしている。プライバシーに関するマニュアルも作り、勉強会を行っている。	プライバシーに関するマニュアルを作成し、それを基に勉強会を行っている。新人研修では、年長者として尊重し、言葉使いに配慮するよう指導している。プライバシーに配慮し、記録には個人名を書かないようにし、トイレのドアは必ず閉めるように指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	食事のメニュー（どんな野菜を食べたいか）など一緒に決めている。買い物に行き食べたいおやつを選んでもらっている。季節に応じた野菜・果物を一緒に選び、利用者さんと一緒に手作りのおやつを作るようにしている。冬はどら焼き作りや、夏にはフルーツポンチなどを作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にしたい、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	この人と一緒に決めて、その時間はその人のペースを大切に、会話を楽しめるよう関わっている。またバイタル測定・体重測定を行い、体調にも配慮している。歌が好きな方とは歌を、折り紙の好きな方とは折り紙を、と工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	行きつけ店がある場合は、そこへ行く様に努めている。家族から要望があれば、早めに行く様に心掛けている。季節に応じた洋服選び、衣替えなども一緒に行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材を見て頂いてからメニューを一緒に決めたり、片付けを出来る人にはしてもらい、盛りつけも一緒に楽しみながらして頂いている。職員も一緒に食事をし、見守りながら会話を楽しんでいる。	毎日、利用者と一緒に食材の買い出しに出かけ、献立を相談して食事を作っている。また、食事の準備、盛り付け、後片付けを利用者と一緒に行っている。利用者の健康に配慮し、一日30品目の食材を使って食事を提供するように工夫している。季節に応じたおやつを作り、職員と一緒に楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事状況を記録し，スタッフが情報を共有するようにしている。1日30品目になるよう工夫している。毎食コップ2杯以上は飲んでもらうようにしている。体調に応じて食事内容・形態を変えたり，冷たいもの・暖かいものと変化を付けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人一人の口腔状態に応じた歯磨きの手伝いを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自分でトイレに行けない人は，時間を決め誘導，介助している。自分でトイレに行かれる方でも，本人の様子を見て声をかけるなどしている。	利用者の排泄パターンを把握し，利用者に応じた声掛けでトイレ誘導をし，できるだけトイレで排泄するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	適度な運動や水分摂取に気を付けている。便通時は分かりやすい様に，記録には赤で線を引き，出ていない時は食事内容をチェックし，水分をしっかり摂ってもらうなどの支援を行っている。内服コントロールが必要な方は，状況に応じて飲んでいただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	昼間に入ってもらっているが，本人が入りたくなければ翌日に回す様，本人の意志を尊重している。声かけや誘導の仕方など工夫もしている。	利用者の要望があれば，毎日入浴することも可能である。夏場は，皮膚を清潔に保つように，週に5～6回入浴する人もいる。入浴を拒否する方には，色々と工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	いつでも自室へ行けるようにしているので、休憩したい時に行かれています。ソファーに座りくつろいだり、リビングの畳でも横になる事が出来る。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	個別に毎食後の薬を分け、手渡してきちんと飲んだか確認している。自分で飲むことが難しい方は、スタッフがついて、確実に飲んでいただいている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	買い物、散歩、水やり、食事の支度等、その人の力を生かした役割、楽しみになるように支援している。折り紙・ちぎり絵など、出来る所をしていただきながら、毎月の作品作りを行っている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	買い物、散歩と戸外に出掛けたり、花の水やり、シーツ干しなど手伝ってもらっている。	ほぼ毎日、食材を調達する為に、利用者と一緒に近くのスーパーに買い物に出かけている。気候が良い時には、花を眺めながら散歩する機会を設けている。年1回は、遠出をし花見を楽しんでいる。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	自己管理が難しい面や、利用者同士のトラブルを避けるためにも持たないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	生活している様子など、毎月、書面にて家族に報告している。イベント時の写真も請求と一緒に送付している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング前の庭には、季節の花や野菜を植え、成長を楽しんでいる。また、畳スペースでは、足を伸ばしてくつろげる様になっている。壁に季節を感じられる様なものを掲示している。	利用者と一緒に毎日掃除をし、室内を清潔に保つように努めている。玄関前には、鉢植えや季節に応じた花を植えている。夏場には、植物による緑のカーテンを作り、日差しを遮るようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳に座りTVを見るスペースや、ベンチ、ソファを置いて、仲のいい利用者同士で寛げるスペースを作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の好みや馴染みの物などを部屋に持ち込んでもらい、毎日掃除を一緒に行い、居心地の良い生活空間作りに努めている。	各居室の飾り窓には、利用者の思い出の品や写真を飾っている。居室には、今まで使用していた家具や馴染みの品を持ち込んで、居心地よい空間を作るようにしている。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状況に合わせて手摺りや家具の配置等、家族と相談しながら工夫をしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームたんぼぼ

作成日 平成28年1月31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に家族の出席が見られず、また会議議事録を家族に送付できてない。	確実に運営推進会議の議事録を家族に送付する。	月初に送る請求書に同封する。	平成28年3月より
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。